

水 稲（病害虫）

【令和7年1月1日現在の農薬登録内容】2025版

《育苗》

使用時期	病害虫	農薬名	使用量	区分	使用方法
育苗土準備(土壌混和または灌注)					
播種直前	苗立枯病	ナエファインフロアブル	2000倍		希釈液を1箱当たり500ml～1000mlかん注し、播種後に覆土をする。
		ナエファイン粉剤	6～8g/箱		播種直前に培土と良く混ぜて育苗箱に入れる。
播種時		タチガレエースM液剤	500～1000倍		混合液を1箱当たり500mlかん注し、
		ダコニール1000	500～1000倍		播種後に覆土をする。
		ダコレート水和剤	400～600倍		こめパワーマット使用時に使用。 1箱当たり500mlかん水する。
播種準備					
塩水選	充実の良い種子を選別するために行う。 【塩水選の適正比重】 うるち:1.13 もち:1.08 【塩水選溶液の作り方】 食塩を水10ℓに対し、うるちの場合は2.15kg、もちの場合は1.26kgを溶かす。この溶液中で沈んだ種子を選別して使用する。 塩水選後は種子を水で良く洗ってから使う。 注)溶液を作る条件によっては食塩量が異なる場合がある。				
種子消毒	ばか苗病 いもち病 もみ枯細菌病 シンガレセンチュウ	テクリードCフロアブル	7.5倍 (40ml)		塗沫処理 乾燥種子10kgに対して左記薬剤を水と混合して300mlの薬液を作る。
		スミチオン乳剤	100倍 (3ml)		
		テクリードCフロアブル	200倍 (50ml)		種もみ浸漬(催芽前) 左記薬剤を水と混合して10ℓの薬液を作るその後種もみ袋を薬液につけて24時間浸漬する。
		スミチオン乳剤	1000倍 (10ml)		
		(環境保全型防除) タフブロック	200倍 (50g)		種もみ浸漬(催芽前) 水10ℓに対し左記薬剤を入れ、その後種もみ袋を薬液につけて24時間浸漬する。 ※無菌の育苗培土を使用する。 (山土は使用しない) ※ベンレート・ダコニール・ダコレートとの併用はしない。
		スミチオン乳剤	1000倍 (10ml)		

《移植(田植)前》

処理	病害虫	農薬名	使用時期	区分	使用量
箱施薬 (右記から一剤を選択して必ず実施する)	イネミズゾウムシ・ウンカ類 ニカメイチュウ・イネツトムシ・いもち病・内穎褐変病	ブーンゼクテラ箱粒剤	播種時 (覆土前) から移植当日		1箱あたり50g使用 (田植前日に箱の上から均一に散布し、かん水で葉に付いた農薬を落としておく。)
	イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ・ウンカ類・ツマグロヨコバイ・いもち病・紋枯病 白葉枯病・内穎褐変病	エパーゴルフフォルテ箱粒剤	播種時 (覆土前) から移植当日		土壌に落ちた農薬は後作物に吸収されるので、シートを敷いて土壌・水が流出しないようにする。

《本田での基本防除》

使用時期	病害虫	農薬名	区分	収穫前日数	使用回数
移植後10日頃	イネミズゾウムシ・ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ	トレボン粒剤(2～3kg/10a) (箱施薬を行った場合は不要)		21日	3回
7月中旬	紋枯病	リンバー粒剤(3～4kg/10a) 又は モンカット粒剤(3～4kg/10a)		30日 14日	2回 4回
7月中下旬	ヒメトビウンカ イネツトムシ ニカメイチュウ	スミチオン乳剤 1000倍(60～150ℓ/10a)		21日	2回
		パダン粒剤4(3～4kg/10a)	劇	30日	6回
出穂10日前頃	内穎褐変病	ゴウケツ粒剤(3～4kg/10a)		出穂5日前 (但し、収穫30日前)	1回

カメムシ類について…近年発生が多くなっています。減収・品質低下を招きますので除草・薬剤散布を組み合わせ防除を徹底しましょう。

＜雑草管理＞

○出穂前の畦畔の草刈は出穂の10日前までに済ませましょう。

○出穂前の草刈後3週間程度で雑草が結実し始めるので、1回目の防除後ただちに畦畔の草刈をしましょう。

○収穫前の畦畔草刈は収穫期2週間前以降に行いましょう。

8月上旬 (粒剤:出穂7日後) (液剤:出穂10日後)	カメムシ類	スタークル粒剤(3kg／10a)		7日	3回
		スタークル豆つぶ(250g／10a)		7日	3回
8月中旬 (粒剤:出穂21日後) (液剤:出穂24日後)		エミリアフロアブル 1000倍(60～150ℓ/10a)		7日	2回
		キラップフロアブル2000倍(60～200ℓ/10a)		14日	2回

水稻病害虫防除基準 本田での粒剤は、掛け流し状態での散布を避け、7日間は止め水にし、湛水状態を保つ。

「農薬の使用は、使用基準を確認し、周りの他作物に農薬が飛散しないようにすること」